



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

Business Intelligence プラットフォームアップグレードガイド

目次

1	ドキュメント履歴.....	4
2	このガイドについて.....	5
3	アップグレードの計画.....	6
3.1	アップグレードパス.....	6
	統合.....	7
3.2	主要概念.....	7
	Central Management Server(CMS).....	7
	Business Intelligence Archive Resource (BIAR) ファイル.....	8
	サイドバイサイドインストール.....	8
3.3	主要タスク.....	9
	完全アップグレード.....	9
	インクリメンタルアップグレード.....	10
	情報プラットフォームサービス 4.3 からのアップグレード.....	10
3.4	命名規則.....	11
	変数.....	11
	用語.....	12
4	アップグレードの準備.....	15
4.1	オブジェクトタイプと機能要件.....	16
4.2	システム要件.....	16
	レガシー監査データベース.....	17
5	アップグレードの実行.....	18
5.1	新しいデプロイメントへのコンテンツのエクスポート.....	19
	ユーザとグループ.....	19
	セキュリティ設定.....	20
	ノートオブジェクトとレガシー InfoView オブジェクト.....	21
	同じ主要バージョンのデプロイメント.....	22
	アップグレードマネジメントツールの使用.....	22
5.2	サーバの再設定および追加.....	36
5.3	監査データベースの設定.....	36
5.4	BI プラットフォーム 4.3 サーバを有効にする.....	36
5.5	旧バージョンのデプロイメントのアンインストール.....	36
6	アップグレード後.....	37
6.1	Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスの移行.....	37

Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスを移行する.....	37
マップされた AD メンバーグループを削除する.....	39

1 ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	初期リリース

2 このガイドについて

このガイドは、企業環境における BI プラットフォームのインストール、アップグレード、メンテナンスを担当するビジネスインテリジェンス管理者を対象としています。

このガイドでは、システムデータおよびビジネスインテリジェンスコンテンツを BI プラットフォーム 4.3 にアップグレードする方法について説明します。アップグレードパス、およびアップグレードの計画、準備、実行、およびアップグレード後のタスクに関する重要な情報について説明しています。

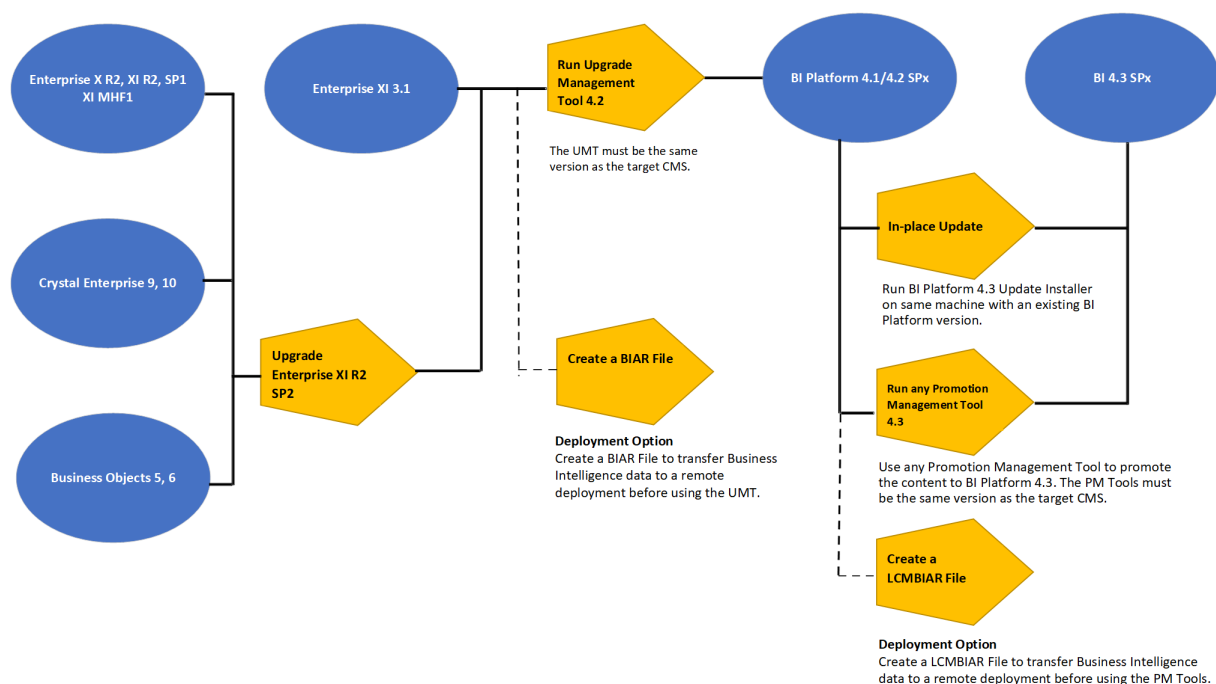
3 アップグレードの計画

3.1 アップグレードパス

以前の BI 4.x バージョンから BI プラットフォーム 4.3 にシステムデータおよびビジネスインテリジェンスコンテンツを移行できます。

① 注記

アップグレードマネジメントツールは 4.3 では非推奨となっていますが、下記のアップグレードパスに従って 4.3 に移行できます。



旧バージョンのデプロイメントで既存のデプロイメントを BI プラットフォーム 4.3 にアップグレードする場合は、以下のガイドラインに従ってください。

1. 既存のデプロイメントが XI R2、XI MHF1、XI R2 SP1、BusinessObjects 5/6、または Crystal Enterprise 9/10 である場合は、最初に XI R2 SP2 (またはそれ以上) にアップグレードし、ステップ 3 から続行してください。
2. 既存のデプロイメントが XI 3.x である場合は、ステップ 3 からアップグレードを直接進めることができます。
3. BI 4.1/4.2 SPx を個別のマシンにインストールし、4.1/4.2 SPx からアップグレードマネジメントツールを実行して、上記のバージョンから BI 4.1/4.2 SPx レベルにコンテンツを移行します。
4. コンテンツを BI 4.1/4.2 SPx レベルに移行したら、以下のいずれかの方法を選択して 4.3 に移行することができます。
 1. 4.1/4.2 SPx レベルのマシンで BI 4.3.x のアップデートインストールソフトウェアを実行します。または

2. BI 4.3 を別のマシンにインストールし、BI 4.3.x のプロモーションマネジメントツールを使用して、コンテンツを BI 4.1/4.2 SPx レベルから BI 4.3.x レベルに昇格します。

① 注記

PM ツールは、ターゲット CMS と同じバージョンである必要があります。

① 注記

BusinessObjects 5/6 から XI 3.1 の詳細については、https://help.sap.com/viewer/product/SAP_BUSINESSOBJECTS_ENTERPRISE_BUSINESS_INTELLIGENCE_PLATFORM/XI.3.1/en-US にある移行ガイドおよびご使用のバージョンの BI プラットフォームインストールガイドを参照してください。

アップグレードマネジメントツールで (UMT) は、デプロイメント内のサーバと Web Tier 機能のみがアップグレードされます。UMT の詳細については、https://help.sap.com/viewer/product/SAP_BUSINESSOBJECTS_BUSINESS_INTELLIGENCE_PLATFORM/4.2/en-US にあるご使用のバージョンの Business Intelligence プラットフォームアップグレードガイドを参照してください。

インプレース更新: BI 4.3 SPx が同じサーバマシンにインストールされている場合は、インプレース更新を実行してコンテンツを BI 4.3.x レベルに更新できます。

3.1.1 統合

BI プラットフォームだけをインストールするか、既存のデプロイメントと並行してインストールすることができます。2 つのデプロイメントは、同じコンピュータ上であっても、同時に動作できます。

→ ヒント

以前のデプロイメントが不要である場合は、アンインストールできます。

関連情報

[サイドバイサイドインストール \[8 ページ\]](#)

3.2 主要概念

3.2.1 Central Management Server(CMS)

Central Management Server (CMS) 専用データベース (CMS リポジトリまたは CMS システムデータベースともいう) には、設定および操作に関する情報が含まれます。分離された監査データストアに監査情報が含まれます。この監査情報を基にビジネスインテリジェンスレポートを実行することができます。

CMS システムデータベースおよび監査データストアデータベースは、組織のレポーティングデータベースから分離しています。デプロイメントをインストールして設定したら、デプロイメントと組織のビジネスレポート用の

レポーティングデータベース間に読み取り専用の接続を確立し、本稼働データベースシステムを変更せずにデータを分析することができます。

3.2.2 Business Intelligence Archive Resource (BIAR) ファイル

Business Intelligence Archive Resource (BIAR) ファイルには、圧縮されたビジネスインテリジェンスコンテンツが含まれています。このコンテンツは、異なる場所や SAP Crystal Server 2016 デプロイメントに簡単に移動できます。

インクリメンタルアップグレードでは、2つの Central Management Server に直接接続できない場合 (たとえば、ソースと出力先のデプロイメントが物理的に異なるネットワークにある場合など) は、ソースまたは出力先として BIAR ファイルを選択できます。

アップグレードマネジメントツールを使用して、インポートウィザードで生成した BIAR ファイルを、2008 V1 からインポートできます。

① 注記

4.x アップグレードマネジメントツールを使用して生成された BIAR ファイルは、別の 4.x デプロイメントにエクスポートできません。セントラル管理コンソール (CMC) のプロモーションマネジメントアプリケーションを使用して、2つの 4.x デプロイメント間でコンテンツを昇格させます。詳細については、「同じ主要バージョンのデプロイメント」の節を参照してください。

⚠ 警告

biarengine.jar を使用して生成された BIAR ファイルを、アップグレードマネジメントツールを使用してインポートすることはお勧めしません。詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの「プロモーションマネジメント」に関する章を参照してください。

デプロイメントおよびそのコンテンツの複雑性によっては、コンテンツが複数のセグメント化された BIAR ファイルに格納される場合があります。複数セグメントの BIAR ファイルをアップグレードのソースとして使用する場合は、すべてのファイルが同じディレクトリ内に含まれているかを確認してください。グループ内の任意のファイルを選択して、グループ内のすべてのファイルのコンテンツをエクスポートできます。

関連情報

[同じ主要バージョンのデプロイメント \[22 ページ\]](#)

3.2.3 サイドバイサイドインストール

3.x/4.x 並列デプロイメントでは、旧バージョンの 3.x デプロイメントがすでにインストールされているコンピュータ上に、4.x バージョンの BI プラットフォームをインストールできます。

⚠ 警告

- 3.x/4.x 並列デプロイメントはサポートされていますが、推奨されるデプロイメントシナリオではありません。
- 2つのデプロイメント間の競合を避けるため、2番目のデプロイメントを一意的ディレクトリにインストールし、一意的 Central Management Server (CMS) ポートを指定し、両デプロイメントで使用されるすべてのポートが一意的であることを確認します。

関連情報

[Central Management Server\(CMS\) \[7 ページ\]](#)

3.3 主要タスク

3.3.1 完全アップグレード

アップグレードマネジメントツールは、完全アップグレード中にデプロイメント内のすべてのコンテンツを別のデプロイメントにコピーしてアップグレードします。

完全アップグレードでは、ソースデプロイメントから出力先デプロイメントにすべてのビジネスインテリジェンスコンテンツ (依存関係や権限を含む) を移行してアップグレードします。出力先デプロイメントに存在するすべてのオブジェクトが、ソースデプロイメント内の同じ一意的識別子を持つオブジェクトによって自動的に上書きされます。出力先デプロイメントのオブジェクトと一意的識別子は異なるものの同じ名前を持ち、同じ場所にあるソースデプロイメントのオブジェクトは、アップグレード時に名前が変更されます。

これは、Central Management Server データベース全体のコンテンツをアップグレードする、最も簡単で時間のかからない方法です。

Windows 上で完全なアップグレードを実行するには、[スタート] メニューの [▶ SAP Business Intelligence ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4](#) からアップグレードマネジメントツールを起動し、[\[アップグレードマネジメントツールへようこそ\]](#) ページで [\[完全アップグレード\]](#) をクリックします。

① 注記

Windows または Unix では、コマンドラインからも完全アップグレードを実行できます。

関連情報

[コマンドラインからの完全アップグレードの実行 \[31 ページ\]](#)



3.3.2 インクリメンタルアップグレード

アップグレードマネジメントツールは、インクリメンタルアップグレード中にデプロイメント内の選択したコンテンツを別のデプロイメントにコピーしてアップグレードします。

インクリメンタルアップグレードでは、出力先デプロイメントにオブジェクト、コンテンツ、依存関係、および権限を個別に移行します。出力先のデプロイメント内のオブジェクトと、異なる一意の識別子が付いているが同じ名前と同じ場所にあるものであれば、ソースデプロイメントのどのオブジェクトをコピーして名前変更するかを選択できます。

Business Intelligence Active Resource (BIAR) ファイルも、アップグレードのソースまたは出力先に選択できます。

インクリメンタルアップグレードで、Central Management Server から特定のオブジェクトを選択して移行するのが、出力先デプロイメントにソースオブジェクトの一部をエクスポートする最適な方法です。

Windows 上でインクリメンタルアップグレードを実行するには、[スタート] メニューの  [SAP Business Intelligence](#)  からアップグレードマネジメントツールを起動し、[アップグレードマネジメントツールへようこそ] ページで [\[インクリメンタルアップグレード\]](#) をクリックします。

① 注記

Windows または UNIX のコマンドラインからインクリメンタルアップグレードは実行できません。

関連情報

[Business Intelligence Archive Resource \(BIAR\) ファイル \[8 ページ\]](#)

[同じ主要バージョンのデプロイメント \[22 ページ\]](#)

3.3.3 情報プラットフォームサービス 4.3 からのアップグレード

複数マシンのクラスタにすでに情報プラットフォームサービス (IPS) 4.3 がデプロイメントされている場合は、同じ Central Management Server (CMS) データベースまたは異なるデータベースを使用してデータを BI プラットフォーム 4.3 デプロイメントに移行する際に、以下のガイドラインを参照してください。

- 同じインストール機能とオプション (インストールパスおよびノード名など) を使用して、IPS クラスタと同じ数のマシンに BI プラットフォーム 4.3 をインストールします。
- CMS データベースを既存の IPS 4.3 データベースにインストールして、BI プラットフォーム 4.3 のインストール時に [\[既存のデータベースの使用\]](#) を選択します。詳細については、*Business Intelligence* プラットフォームインストールガイドの“完全インストール”に関する節を参照してください。

① 注記

異なるデータベースを使用しているデプロイメントでは (SQL Anywhere と Oracle など)、1 つのデータベースから他のデータベースにデータをコピーするときに、セントラル設定マネージャ (CCM) を使用してください。

詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドの“CMS システムデータベース間でのデータのコピー”の章を参照してください。

関連情報

[Central Management Server\(CMS\) \[7 ページ\]](#)

3.4 命名規則

3.4.1 変数

本書では、次の変数を使用します。

変数	説明
<INSTALLDIR>	BI プラットフォームがデフォルトでインストールされるディレクトリ。 Windows マシンの場合: C:\¥Program Files (x86)¥SAP BusinessObjects
<AIJVMDIR>	AIX マシンで SAP Java 仮想マシン (JVM) がインストールされているディレクトリ。 <INSTALLDIR>/sap_bobj/<enterprise_xi40/<aix_rs6000_64/sapjvm/bin
<BINDIR>	Unix マシンで BI プラットフォームバイナリファイルがインストールされているディレクトリ。 <INSTALLDIR>/sap_bobj/<enterprise_xi40/<PLATFORM>
<PLATFORM>	Unix オペレーティングシステムの名前。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• aix_rs6000_64• linux_x64• solaris_sparcv9
<LIBDIR>	Unix マシンでライブラリがインストールされているディレクトリ。次の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• LIBPATH (AIX)• LD_LIBRARY_PATH (Linux および Solaris)
<JARDIR>	アップグレードマネジメントツールの JAR ファイルがインストールされているディレクトリ。

変数	説明
	Windows マシンの場合、このディレクトリは <code><INSTALLEDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%java%apps%upgradeManagementTool%jars</code> です。 Unix マシンの場合、このディレクトリは <code><INSTALLEDIR>/ sap_bobj/enterprise_xi40/java/apps/ upgradeManagementTool/jars</code> です。
<code><WIN64DIR></code>	Windows マシンで 64 ビットコンポーネントがインストール されているディレクトリ。 <code><INSTALLEDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%win64_x64</code>

3.4.2 用語

BI プラットフォームのドキュメントでは、次の用語が使用されます。

用語	定義
アドオン製品	BI プラットフォームで動作する一方、独自のインストールプログラムがある製品です。
監査データストア (ADS)	監査データを保存するために使用されるデータベースです。
BI プラットフォーム	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの略語です。
バンドルされたデータベース、バンドルされた Web アプリケーションサーバ	BI プラットフォームに同梱されているデータベースまたは Web アプリケーションサーバのことです。
クラスタ (名詞)	1 つの CMS データベースを使用し、同時に動作する 2 つ以上の Central Management Server (CMS) です。
クラスタ化する (動詞)	クラスタを作成することです。 <ol style="list-style-type: none"> マシン A に CMS および CMS データベースをインストールします。 マシン B に CMS をインストールします。 マシン B の CMS がマシン A の CMS データベースを使用するように指定します。

用語	定義
クラスタキー	<p>CMS データベースでキーを解読するのに使用されます。</p> <p>CCM を使用してクラスタキーを変更できますが、パスワードのようにキーをリセットすることはできません。暗号化されたコンテンツが含まれており、紛失しないようにすることが重要です。</p>
CMS	Central Management Server の略語です。
CMS データベース	BI プラットフォームに関する情報を保存するために CMS で使用されるデータベースです。
デプロイメント	1 つ以上のマシンにおいてインストール、設定、実行されている BI プラットフォームソフトウェアのことです。
インストール	インストールプログラムによって 1 つのマシン上に作成される BI プラットフォームファイルのインスタンスです。
マシン	BI プラットフォームソフトウェアがインストールされるコンピュータです。
メジャーリリース	ソフトウェアのフルリリースです。
マイナーリリース	ソフトウェアの一部のコンポーネントのリリースです。
ノード	同じマシンで実行され、同じ Server Intelligence Agent (SIA) で管理される BI プラットフォームサーバのグループです。
パッチ	特定のサポートパッケージバージョンの小規模な更新です。
昇格	BI コンテンツを同じメジャーリリース (4.3 から 4.3 など) のデプロイメント間で、プロモーションマネジメントアプリケーションを使用して移行するプロセスです。
サーバ	BI プラットフォームのプロセスの 1 つです。サーバは、1 つ以上のサービスをホストします。
Server Intelligence Agent(SIA)	サーバの停止、起動、起動など、サーバのグループを管理するプロセスです。
サポートパッケージ	マイナーリリースまたはメジャーリリースに対するソフトウェアの更新です。
Web アプリケーションサーバ	動的コンテンツを処理するサーバです。
アップグレード	移行プロセスを完了するために必要な計画、準備、移行、後処理のことです。

用語	定義
ONE Installer	ONE Installer は、サービスパッケージまたはパッチのフレッシュインストール、パッチからパッチへの更新、サービスパッケージからパッチへの更新などの複数の BI インストールシナリオをサポートする単一のインストールパッケージです。

4 アップグレードの準備

BI プラットフォームにアップグレードする前に、以下の作業を実行してください。

- コンピュータが、デプロイメントのシステム要件を満たしていることを確認します。
- システムデータベースとファイルストアを含む既存のリポジトリのバックアップを作成します。
- 既存のデプロイメントにあるカスタム Web アプリケーション、HTML ページ、およびスクリプトをバックアップします。
- アップグレードマネジメントツールを実行する前に、ローカルで実行されているプログラムをすべて閉じてください。
- 既存のデプロイメントにある Web サーバや Web アプリケーションサーバを停止してください。
- インストール時には、新しいデータベースを作成するか、新しいデプロイメントの Central Management Server の既存のデータベースを使用します。
- (オプション) 既存のデータベースを選択した場合は、データベースインスタンスに接続する際に必要になる、データベースサーバの詳細情報と、管理用の認証情報を入手してください。
- (オプション) アップグレードマネジメントツールの SSL 設定を設定します。

① 注記

データベースアカウントには、テーブルの追加と削除、およびそれらのテーブルでデータの挿入、削除、更新を行うための権限が必要です。

- BI プラットフォーム 4.3 では、既存のサーバトレースパラメータが `sap_log_level` および `sap_trace_level` に置き換えられています。4.0.x デプロイメントがある場合は、`BO_trace.ini` ファイルをテンプレートとして使用して、`BO_trace.original.ini` を手動でアップグレードします。詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの“ログの管理および設定”に関する章を参照してください。
- 最新バージョンにアップグレードした後、システムランドスケープディレクトリをクリーンアップするには、コマンド `runbobjsldds.bat -clean` を実行する必要があります。詳細については、[2536219](#) を参照してください。
- インストール/更新アクティビティを開始する前に、以下のナレッジベース記事を参照して、ベストプラクティスおよび前提条件を見逃さないようにしてください。
 - KBA [1952120](#): BI のインストール/更新/パッチ適用時の Windows でのベストプラクティスおよび前提条件
 - KBA [2490588](#): BI のインストール/更新/パッチ適用時の Linux でのベストプラクティスおよび前提条件

アップグレードマネジメントツールを実行する際は、次のガイドラインに従ってください。

- XI R2 デプロイメントの場合は、ソースデプロイメントをアップグレードする際に管理者アカウントでログオンします。
- XI 3.x 以降のデプロイメントがある場合は、管理者グループのメンバーとしてログオンします。

デプロイメントの変更点の概要について詳しくは、新機能ガイドと、BI プラットフォーム計画ガイドの“アーキテクチャ”に関する章を参照してください。

関連情報

[SSL 設定を設定する \[23 ページ\]](#)

4.1 オブジェクトタイプと機能要件

アップグレードマネジメントツールを実行するマシンに、アップグレードするオブジェクトタイプに対応する BI プラットフォームの機能が備わっていることを確認します。次の表に、使用可能なオブジェクトタイプと、これらの関連機能を示します。

→ 注意

マシンにインストールされていない機能がある場合、対応するオブジェクトタイプはアップグレードされません。

オブジェクトタイプ	必須機能
BI ワークスペース (ダッシュボード)	BI ワークスペースサービス
Crystal レポート	なし
Web Intelligence ドキュメントおよびパブリケーション	接続処理サービス
プロモーション管理アプリケーション (ライフサイクルマネジメントコンソール) データ	[プラットフォーム処理サービス] または [プラットフォームスケジューリングサービス]
Mobile	Mobile 用 CMS プラグイン
ユニバース、接続	接続処理サービス
Analysis, edition for OLAP ワークスペース	なし
Web サービスクエリツール (QaaWS)	接続処理サービス

4.2 システム要件

このリリースでサポートされるオペレーティングシステム、ハードウェア要件、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、データベースサーバの一覧については、SAP サポートポータル の SAP BusinessObjects セクションで入手可能な製品出荷マトリックス (サポートされているプラットフォーム/PAR) <https://support.sap.com/home.html> を参照してください。

4.2.1 レガシー監査データベース

アップグレードマネジメントツールではコンテンツはコピーされないため、XI 3.x (以前) の監査データベースを使用して BI プラットフォーム 4.2 を実行することはできません。新しい BI プラットフォーム 4.2 監査データベースを作成し、それに監査出力をつなげることができます。

関連情報

[監査データベースの設定 \[36 ページ\]](#)

5 アップグレードの実行

BI プラットフォーム 4.2 にアップグレードするには、新しいバージョンのデプロイメントをインストールし、既存のデプロイメントのコンテンツとシステムデータをコピーする必要があります。

新バージョンのデプロイメントだけをインストールするか、既存のデプロイメントと並列してインストールすることができます。2つのデプロイメントは同時に動作できます。旧バージョンのデプロイメントがなくなったら、アンインストールできます。

⚠ 警告

並列デプロイメントを作成する場合は、出力先デプロイメントの一意の Central Management Server (CMS) ポート番号 (6400 以外) を指定し、デプロイメント間で競合が発生しないようにします。

新バージョンのデプロイメントのインストールを完了したら、次の手動操作を実行します。

- デプロイメントサーバを有効にします。
- アップグレードマネジメントツールを使用して、既存のデプロイメントからビジネスインテリジェンスコンテンツをエクスポートします。
- 新バージョンのデプロイメントサーバを再設定し、Central Management Server (CMS) に追加します。
- 監査データベースを設定します。
- (オプション) 旧バージョンのデプロイメントをアンインストールします。

① 注記

アップグレードマネジメントツールでは、サーバおよびサーバクラスタ設定は新規のデプロイメントにコピーされません。既存のデプロイメントが複数のサーバまたはクラスタに分散しており、新バージョンのデプロイメントも同じ構成にする場合は、セントラル管理コンソールを使ってサーバおよびクラスタを手動で追加します。詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの“サーバの管理および設定”に関する章を参照してください。

Windows コンピュータへのデプロイメントのインストールについては、BI プラットフォームインストールガイド (Windows 版)を参照してください。

Unix コンピュータへのデプロイメントのインストールについては、BI プラットフォームインストールガイド (Unix 版)を参照してください。

関連情報

[アップグレードマネジメントツールの使用 \[22 ページ\]](#)

[監査データベースの設定 \[36 ページ\]](#)

[旧バージョンのデプロイメントのアンインストール \[36 ページ\]](#)

5.1 新しいデプロイメントへのコンテンツのエクスポート

5.1.1 ユーザとグループ

アップグレードマネジメントツールは、あるデプロイメントから他のデプロイメントに、階層関係を保持しながらユーザおよびグループをエクスポートします。アップグレードマネジメントツールでは、以下のルールが使用されます。

- ソースデプロイメントのグループが出力先デプロイメントにすでに存在する場合は、アップグレードマネジメントツールによってグループが自動的にマージされ、出力先デプロイメントのグループのメンバーが更新され、エクスポートされたユーザがデプロイメントに追加されます (アカウントがすでに存在しない場合)。
- ソースデプロイメントのユーザが出力先デプロイメントのユーザのエイリアスと同じエイリアスを持つ場合は、出力先デプロイメントのユーザはすべてのエイリアスを保持でき、アップグレードマネジメントツールによって、競合するエイリアスがソースデプロイメントから削除されます。

5.1.1.1 ユーザライセンス

既存のライセンスを使用してユーザをインポートする場合、アップグレードマネジメントツールでは、以下のルールが使用されます。

- ソースデプロイメント内の同時接続ユーザは、同時接続ユーザとして出力先デプロイメントにインポートされます。
- ソースデプロイメント内の指定ユーザは、使用できる指定ユーザライセンスがなくなるまで、指定ユーザとして出力先デプロイメントにインポートされます。残った指定ユーザは同時接続ユーザとしてインポートされます。

ユーザライセンスについては、BI プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

5.1.1.2 サードパーティの認証方法

BI プラットフォームは、次のサードパーティの認証方法をサポートしています。

- Enterprise
- JD Edwards
- LDAP
- Oracle EBS
- PeopleSoft
- SAP
- Siebel
- Windows AD

サードパーティユーザと認証プラグインの詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの“認証”に関する章を参照してください。

関連情報

[Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスの移行 \[37 ページ\]](#)

5.1.1.3 既存のサードパーティ認証を使用してユーザをエクスポートする

1. 出力先デプロイメントで認証プラグインを設定して有効化します。
2. アップグレードマネジメントツールを実行し、移行するユーザを選択します。

アップグレードプロセスが完了すると、すべてのユーザが適切なグループに正しくマップされます。ユーザは追加の設定を行わずにログインできます。

サードパーティユーザと認証プラグインの詳細については、BI プラットフォーム 管理者ガイドの“認証”に関する章を参照してください。

関連情報

[Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスの移行 \[37 ページ\]](#)

5.1.2 セキュリティ設定

オブジェクトのセキュリティ設定を出力先デプロイメントにエクスポートするには、オブジェクトと、そのオブジェクトに対し権限を持つユーザとグループをエクスポートします。アップグレードマネジメントツールでは、以下のルールが使用されます。

- インクリメンタルアップグレードを実行し、ユーザやグループをエクスポートせずに、出力先デプロイメントにオブジェクトをエクスポートすると、出力先デプロイメントにすでに同じユーザとグループが存在しない限り、オブジェクトのセキュリティ設定が失われます。
- インクリメンタルアップグレードを実行し、カスタムアクセスレベルをエクスポートせずに、出力先デプロイメントにオブジェクトをエクスポートすると、出力先デプロイメントにすでに同じカスタムアクセスレベルが存在しない限り、カスタムアクセスレベルを設定するために使用されていたオブジェクトのセキュリティ設定が失われます。
- オブジェクトの所有者がエクスポートされず、出力先デプロイメントに存在しない場合、エクスポート後、オブジェクトの所有者は管理者ユーザになります。

5.1.3 ノートオブジェクトとレガシー InfoView オブジェクト

ノートオブジェクト

アップグレードマネジメントツールでは、初期アップグレードプロセス中にノートオブジェクトはアップグレードされません。アップグレードプロセスが完了したら、アップグレードマネジメントツールを再度実行してノートオブジェクトのアップグレードを完了する必要があります。

レガシー InfoView オブジェクト

BI platform 4.3 にアップグレードする際に、レガシー MyInfoView および InfoView オブジェクトは BI ワークスペースおよび BI ワークスペースモジュールに変換されます。

⚠ 警告

レガシー MyInfoView および InfoView オブジェクトを 4.3 相当に変換するには、BIAR から Live のアップグレードシナリオを使用せず、Live から Live のアップグレードシナリオを使用してください。

アップグレードマネジメントツールでは、以下のルールが使用されます。

- 完全アップグレードでは、個人用およびパブリックフォルダ内のすべてのオブジェクトは自動的にアップグレードされます。
- インクリメンタルアップグレードでは、特定のユーザを選択できます。ユーザの個人用およびパブリックフォルダ（たとえば、受信トレイ、ドキュメント、個人用カテゴリ、個人用フォルダ）は、依存関係として含まれます。
- 個人用および会社用ダッシュボードは、汎用 BI ワークスペースに変換されます。
- パフォーマンスマネジメントアプリケーションオブジェクトは、BI ワークスペースアプリケーションオブジェクトに変換されます。

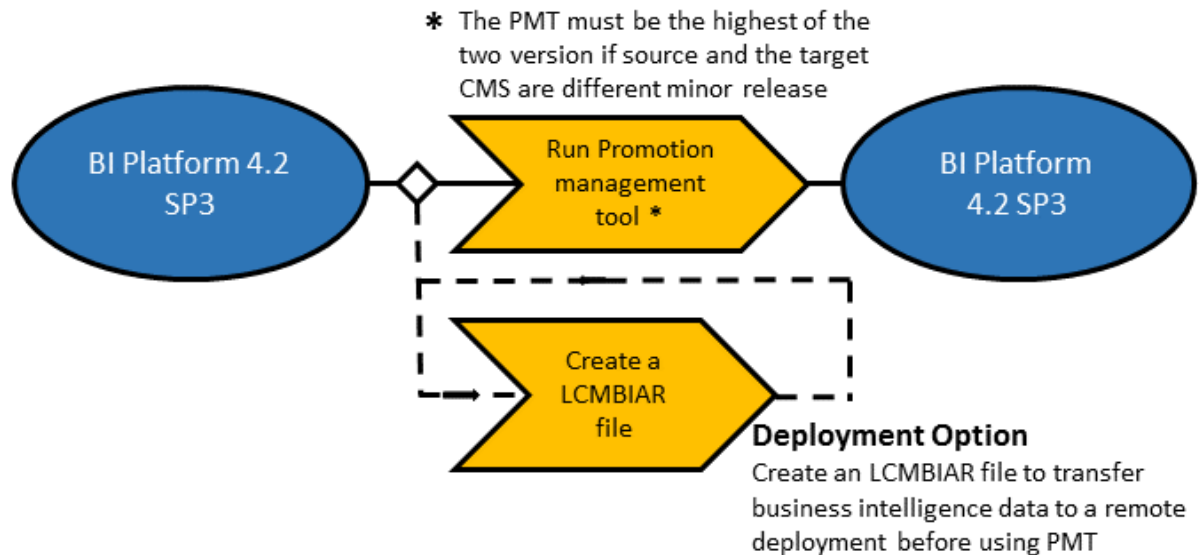
① 注記

以前は、パフォーマンスマネジメントアプリケーションオブジェクトにアクセス権がないユーザでも、MyDashboard や MyInfoView オブジェクトを作成、編集し、個人用フォルダに保存できました。アップグレード後、このようなユーザには、BI ワークスペースアプリケーションオブジェクトへのアクセス権を付与する必要があります。

関連情報

[\[ログオン\] ページ \[25 ページ\]](#)

5.1.4 同じ主要バージョンのデプロイメント



セントラル管理コンソール (CMC) のプロモーションマネジメントアプリケーションを使用して、2 つの BI プラットフォーム 4x デプロイメント間でコンテンツを昇格させる必要があります。たとえば、開発または品質保証デプロイメントから本稼働デプロイメントにコンテンツをエクスポートできます。

① 注記

アップグレードマネジメントツールでは、主要バージョンが同じデプロイメント間のコンテンツを移行できません。

① 注記

XI 3.x ライフサイクルマネジメント (LCM) ジョブは、コンテンツがバージョン固有であるため、BI プラットフォーム 4.x に移行することはできません。デフォルトで、LCM オブジェクトの移行は無効になっています。ただし、infoObject の履歴を保持する必要がある場合は、アップグレードマネジメントツールに以下のオプションを追加して、強制的に移行することができます: `-Dumt.systemVar.omitLCMObjects=false`

詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの“プロモーションマネジメント”に関する章を参照してください。

5.1.5 アップグレードマネジメントツールの使用

アップグレードマネジメントツールの指示に従って、ビジネスインテリジェンスコンテンツ (ユーザアカウント、グループ、フォルダ、レポート、ユニバース、セキュリティ、およびその他のオブジェクト) をエクスポートし、最新バージョンにアップグレードできます。

アップグレードの手順は次のとおりです。

完全アップグレード

1. アップグレードシナリオを選択します。
2. ソースデプロイメントと出力先デプロイメントを指定します。
3. (オプション) オブジェクトパラメータを指定します。
4. アップグレードを実行します。

インクリメンタルアップグレード

1. アップグレードシナリオを選択します。
2. ソースデプロイメントと出力先デプロイメントを指定します。
3. アップグレードするオブジェクトを選択します。
4. (オプション) オブジェクトパラメータを指定します。
5. 要約およびアップグレードオプションを確認します。
6. アップグレードを実行します。

5.1.5.1 開始前の準備

新しい BI プラットフォーム 4.2 デプロイメントが不整合な状態に陥ることを避けるため、SAP BI プラットフォームデプロイメントをアップグレードする前に、ソースデプロイメントおよび出力先デプロイメント上の不要なサーバがすべてシャットダウンされていることを確認してください。

- Central Management Server (CMS) および File Repository Server (FRS) 以外のソースデプロイメント上のすべてのサーバを停止します。

① 注記

出力先デプロイメントの CMS または FRS が停止している場合、アップグレードプロセスを開始する前に、アップグレードマネジメントツールに警告が表示されます。

- CMS、FRS、Report Application Server (Crystal Reports 2011 または 2013 ドキュメントをアップグレードする計画がある場合)、Adaptive Processing Server (Analysis ワークスペースをアップグレードする計画がある場合) 以外の、出力先デプロイメント上のすべてのサーバ (すべての Job Server を含む) を停止します。
- (オプション) アップグレードマネジメントツールの SSL 設定を設定します。

[スタート] メニューからアップグレードマネジメントツールを起動するには、[SAP Business Intelligence](#) > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4](#) > [アップグレードマネジメントツール](#) をクリックします。

5.1.5.1.1 SSL 設定を設定する

SSL を使用する場合は、`<JARDIR>/upgradeManagementToolSystem.properties` にあるアップグレードマネジメントツールの SSL 設定を設定する必要があります。

① 注記

Java Virtual Machine の SSL プロパティセットは、このファイルの SSL プロパティよりも優先されます。

⚠ 制限

ソースデプロイメントと出力先デプロイメントで同じ SSL 証明書を使用し、BI プラットフォーム 4.2 を使用して証明書を生成する必要があります。

1. テキストエディタで `upgradeManagementToolSystem.properties` を開きます。
2. 各設定の値を入力します。

設定	値
<code>umt.systemVar.ssl.businessobjects.orb.oci.protocol</code>	値 <code>ssl</code> 。この値を入力すると、SSL 通信が有効になります。
<code>umt.systemVar.ssl.certDir</code>	鍵と証明書の場所
<code>umt.systemVar.ssl.trustedCert</code>	信頼できる証明書ファイルの名前。
<div>① 注記 複数のファイルを指定する場合は、各ファイルをセミコロンで区切ります。たとえば、<code>fileA;fileB</code> です。</div>	
<code>umt.systemVar.ssl.sslCert</code>	SDK 証明書。
<code>umt.systemVar.ssl.sslKey</code>	SDK 証明書の秘密鍵。
<code>umt.systemVar.ssl.passphrase</code>	秘密鍵のパスフレーズを含むファイルの場所。
<code>umt.systemVar.ssl.source.bip4x</code>	ソース CMS がバージョン 4.0 以上で、SSL 用に設定されているかどうかを指定します。値は <code>true</code> または <code>false</code> です。デフォルトは <code>false</code> です。
<div>① 注記 ソース CMS が 4.0 以上で、SSL 用に設定されている場合は、<code>true</code> を入力し、SSL 証明書がアップグレードで保持されるようにする必要があります。</div>	

⚠ 警告

これ以外の設定や値は、追加したり編集しません。

3. `upgradeManagementToolSystem.properties` を保存します。

例: `upgradeManagementToolSystem.properties` の SSL 設定

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <entry key="umt.systemVar.ssl.businessobjects.orb.oci.protocol">
    ssl</entry>
```



```
<entry key="umt.systemVar.ssl.certDir">/usr/SSLCert</entry>
<entry key="umt.systemVar.ssl.trustedCert">cacert.der</entry>
<entry key="umt.systemVar.ssl.sslCert">servercert.der</entry>
<entry key="umt.systemVar.ssl.sslKey">server.key</entry>
<entry key="umt.systemVar.ssl.passphrase">passphrase.txt</entry>
<entry key="umt.systemVar.ssl.source.bip4x">true</entry>
</properties>
```

関連情報

[変数 \[11 ページ\]](#)

5.1.5.2 アップグレードマネジメントツールページ

5.1.5.2.1 [ようこそ] ページ

[ようこそ] ページでは、[完全アップグレード] または [インクリメンタルアップグレード] を指定できます。ログレベル、および一時フォルダの場所に使用する言語も選択できます (デプロイメントに追加の言語がインストールされている場合)。

続行するには、[次へ] をクリックします。

5.1.5.2.2 [ログオン] ページ

[ログオン] ページでは、アップグレードシナリオ、ソースデプロイメントおよび出力先デプロイメントを指定できます。

アップグレードシナリオ

- [CMC から CMC](#)
ソースデプロイメントからのコンテンツを出力先デプロイメントにエクスポートし、アップグレードします。
- [BIAR から CMC](#)
BIAR ファイルからのコンテンツを出力先デプロイメントにエクスポートし、アップグレードします。
アップグレードマネジメントツールを使用して、インポートウィザードで生成した BIAR ファイルを、XI Release 2 または XI 3.x からインポートできます。

⚠ 警告

レガシー MyInfoView および InfoView オブジェクトを 4.2 相当に変換するには、BIAR から Live のアップグレードシナリオを使用せず、Live から Live のアップグレードシナリオを使用してください。

- [CMC から BIAR](#)

ソースデプロイメント (BI プラットフォーム 4.2 以降) からコンテンツを BIAR ファイルにエクスポートします。

① 注記

BI プラットフォーム 4.x アップグレードマネジメントツールを使用して生成された BIAR ファイルは、別の 4.x デプロイメントにエクスポートできません。セントラル管理コンソール (CMC) のプロモーションマネジメントアプリケーションを使用して、2 つの 4.x デプロイメント間でコンテンツを昇格させます。

⚠ 警告

biarengine.jar を使用して生成された BIAR ファイルを、アップグレードマネジメントツールを使用してインポートすることはお勧めしません。詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの“プロモーションマネジメント”に関する章を参照してください。

① 注記

CMS から BIAR のシナリオを実行する場合、以下のオプションは無効になります。

- [\[フィルタの選択\]](#) ページの [\[すでに移行されたオブジェクトを表示しない\]](#) オプションは無効です。

ソースデプロイメントと出力先デプロイメント

- 選択した Central Management Server (CMS) の、管理者アカウントのユーザ名とパスワードを入力します。CMS がポート番号 6400 以外を使って実行される場合は、ホスト名の後にコロンとポート番号を入力します (例: [<ホスト名>:<ポート番号>](#))。
[\[後で使うために認証情報を設定する\]](#) チェックボックスをオンにすると、CMS ユーザ名が保存されます。この後、UMT にログオンすると、デフォルトで、[\[ユーザ名\]](#) フィールドに保存された情報が入力されます。
- 選択した BIAR ファイルのパスとファイル名を入力します。パスワードを入力して、BIAR ファイルを保護し、アップグレード処理中に作成されたローカルデータベースを暗号化することもできます。
[\[後で使うために認証情報を設定する\]](#) チェックボックスをオンにすると、BIAR の場所が保存されます。この後、UMT にログオンすると、デフォルトで、保存された情報を使用して BIAR の場所が入力されます。

① 注記

BIAR ファイルを暗号化するとアップグレードプロセスが長くなり、パフォーマンスが落ちる可能性があります。

続行するには、[次へ](#)をクリックします。

CMS にログオンすると、このページには戻れなくなります。異なるソースデプロイメントまたは出力先デプロイメントを使用するには、アップグレードマネジメントツールを終了して再起動します。

5.1.5.2.3 [\[フィルタの選択\]](#) ページ

[\[フィルタの選択\]](#) ページの主な目的は、表示されるドキュメントの数を削減することです。このページでは、次に基づいてドキュメントをフィルタすることができます。

- 作成/変更時間
- オブジェクトの種類
- 以前に移行されたコンテンツ

ソース

ソースデプロイメントでは、次の2つのフィルタが提供されます。

- **時間フィルタの適用**: 指定された開始日付と終了日付の間に作成/変更されたドキュメントを取得することができます。

① 注記

BIAR から CMS のシナリオを実行する場合、**[時間フィルタの適用]** オプションは無効になります。

- **すべてのオブジェクトタイプを選択**: デフォルトでは、すべてのドキュメントタイプが選択されます。必要なドキュメントタイプを選択できるようにすることができます。

出力先

すでに移行されたオブジェクトを表示しない: 以前に出力先に移行したドキュメントを移行しない場合は、**[すでに移行されたオブジェクトを表示しない]** オプションを選択します。

① 注記

CMS から BIAR のシナリオを実行する場合、**[すでに移行されたオブジェクトを表示しない]** オプションは無効になります。

[次へ] をクリックして次に進みます。

① 注記

[フィルタの選択] ページで選択したフィルタは、**[オブジェクトの選択]** ページでのオブジェクトの選択に対してのみ適用されます。ただし、このフィルタ選択は、**[要約]** ページの依存関係の計算に対しては適用されません。

たとえば、次を実行します。

1. **[フィルタの選択]** ページでオブジェクトの種類として Web Intelligence レポートを選択します。
2. **[オブジェクトの選択]** ページで Web Intelligence レポートを選択し、**[このオブジェクトとその依存関係をエクスポートする]** を選択します。
[フィルタの選択] ページで選択したフィルタに関係なく、**[要約]** ページには、ユニバースと接続が Web Intelligence レポートとともに表示されます。これは、依存関係ルールによります。

5.1.5.2.4 [パラメータ] ページ

[[パラメータ](#)] ページでは、オブジェクト用のパラメータを入力します。

Web サービスクエリのための URL を入力できます (例: <http://<localhost>:8080/dswsbobje>)。

続行するには[[次へ](#)]をクリックします。

5.1.5.2.5 [オブジェクトの選択] ページ

[[オブジェクトの選択](#)] ページでは、オブジェクトインスタンス設定、ソースデプロイメントからエクスポートするコンテンツ、特定オブジェクトの依存関係、および CMS タブへのアクセス権限を選択できます。

オブジェクトインスタンス設定

[[オプション](#)] をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

- [[オブジェクトが選択された場合はオブジェクトのすべてのインスタンスをエクスポートして、その依存項目をエクスポートします。](#)]
- [[オブジェクトインスタンスをエクスポートしない](#)]
- [[待機中/定期的なオブジェクトインスタンスをエクスポートする](#)]

① 注記

BIAR から CMS のシナリオを実行する場合、[[待機中/定期的なオブジェクトインスタンスをエクスポートする](#)] オプションは無効になります。

[OK] をクリックして、[[オプション](#)] ダイアログボックスを閉じます。

オブジェクトと依存関係

依存関係と共にオブジェクトをエクスポートできます。他のオブジェクトが依存するオブジェクトもエクスポートできます。

オブジェクトをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

- [[このオブジェクトとその依存関係をエクスポートする](#)]
ユニバース、ユニバース接続、オブジェクトインスタンスが含まれます。
- [[このオブジェクトをエクスポートする](#)]
依存関係はエクスポートされません。
- [[依存関係がある場合のみこのオブジェクトをエクスポートする](#)]

複数のオブジェクトに同じ設定を適用するには、[[選択したオブジェクトに適用](#)] を選択します。

続行するには、[[次へ](#)] をクリックします。

【ユーザおよびユーザグループ】オブジェクト

① 注記

ユーザおよびユーザグループの選択時には、特定のユーザフォルダを選択できます。

【ユーザおよびユーザグループ】オブジェクトをクリックするとダイアログボックスが表示されます。【ユーザおよびユーザグループ】ダイアログボックスでは、グループを右クリックして次のいずれかのオプションを選択することができます。

- [このグループとそのサブグループ、それらのユーザとその依存関係をエクスポートする]
- [このグループとそのサブグループ、およびそれらのユーザをエクスポートする]
- [依存関係がある場合のみこのグループとそのサブグループ、およびそれらのユーザをエクスポートする]

① 注記

設定が反映されないようにするには、`Shift` キーを押しながらグループを右クリックします。

[閉じる] をクリックして【ユーザおよびユーザグループ】ダイアログボックスを閉じます。

5.1.5.2.6 【要約】 ページ

【要約】 ページに、アップグレードマネジメントツールによって出力先デプロイメントにエクスポートされるコンテンツの一覧が表示されます。

① 注記

出力先デプロイメントで Central Management Server (CMS) と File Repository Server (FRS) が実行されていることを確認してください。出力先デプロイメントの CMS または FRS が停止している場合、アップグレードプロセスを開始する前に、アップグレードマネジメントツールに警告が表示されます。

完全アップグレード

エクスポート設定を変更するには、[戻る] をクリックします。

一覧を参照し、続行するには [開始] をクリックします。

インクリメンタルアップグレード

一覧には、オブジェクトの依存関係や、オブジェクトに依存する他のオブジェクトが表示されます。オブジェクトの依存関係を表示するには、オブジェクトをダブルクリックするか選択して、[<数> オブジェクトがこのオブジェクトに依存しています。] をクリックします。【依存関係】 ページには、依存関係の名前、パス、インスタンス数、オブジェクトの種類が表示されます。

オブジェクトは、その隣にあるチェックボックスのチェックを外すと削除できます。この一覧にオブジェクトを追加するには、[戻る] をクリックして、[オブジェクトの選択] ページでオブジェクトを選択します。

名前の競合の解決またはインクリメンタルエクスポートオプションを指定するには、[アップグレードオプション] をクリックします。

他のエクスポート設定を変更するには、[戻る] をクリックします。

一覧を参照し、続行するには [開始] をクリックします。

① 注記

アップグレードマネジメントツールでのドキュメントの移行に必要な最小一時領域が表示されます。

5.1.5.2.6.1 アップグレードオプション

このダイアログボックスでは、アップグレード処理時の、名前の競合の解決方法や、インクリメンタルエクスポートオプションを指定できます。

名前の競合の解決

名前と場所が同じで、オブジェクトタイプも同じ 2 つのオブジェクトに対して取るアクションを選択します。

- (デフォルト) [名前の競合を防ぐためオブジェクトの名前を変更してください]
エクスポート時にオブジェクトのファイル名の末尾に数字を追加します。
- オブジェクトをエクスポートしない
アップグレードプロセスからオブジェクトを除外します。

① 注記

ユーザが選択したアップグレードオプションがアップグレード時にすべてのオブジェクトに適用されます。複数のオブジェクトを異なるオプションでエクスポートするには、個別にインクリメンタルアップグレードを実行する必要があります。

インクリメンタルエクスポートのオプション

- オブジェクト内容を上書きします
CUID が一致する場合、出力先デプロイメントにあるオブジェクトを、ソースデプロイメントにあるオブジェクトで上書きします。

① 注記

[次のオブジェクトタイプを除く] 一覧で特定のオブジェクトタイプ名のチェックをオンにすることで、上書きされるのを防止できます。

- **セキュリティを含める**
CUID が一致する場合、ソースデプロイメントのセキュリティ権限を出力先デプロイメントに含めます。
- **オブジェクトセキュリティを上書きします**
CUID が一致する場合、出力先デプロイメントにある既存のセキュリティ権限を、ソースデプロイメントからのセキュリティ権限で上書きします。

[OK] をクリックして、[要約] ページに戻ります。

5.1.5.2.7 【エクスポート】ページ

[エクスポート] ページには、正常にアップグレードされたオブジェクト、またはアップグレードできなかったオブジェクトについての詳細情報が表示されます。

- [一般情報] タブには、アップグレードプロセスの結果およびログファイルの場所が表示されます。
- [オブジェクトログ] タブには、処理されたオブジェクトについての詳細情報が表示されます。

アップグレードマネジメントツールは、この情報をログファイルに書き込みます。

5.1.5.3 コマンドラインからの完全アップグレードの実行

Windows マシンまたは Unix マシン上でコマンドラインから完全アップグレードを実行できます。

Unix マシン上でコマンドラインから完全アップグレードを実行する前に、バイナリ検索パスに **<BINDIR>** を含めます。

```
export <LIBDIR>=$<LIBDIR>:<BINDIR>
```

完全アップグレードを実行するには、**<JARDIR>** ディレクトリで `upgrademanagementtool.jar` を実行します。

① 注記

AIX プラットフォームにデプロイしている場合は、**<AIXJVMDIR>** で SAP Java Virtual Machine (JVM) を実行します。他の Unix プラットフォームで実行中のデプロイメントでの Sun JVM の使用の詳細については、「変数」の節を参照してください。

以下の Java パラメータを含めて、十分なメモリを割り当てて、パスを **<BINDIR>** に設定します。

```
-Xmx2g -Djava.library.path="<BINDIR>"
```

例: CMS から CMS へのエクスポート

```
<AIXJVMDIR>/java -Xmx2g -Djava.library.path="<BINDIR>"
-jar upgrademanagementtool.jar
-mode livetolive
-source mycms1:6400
```

```
-sourceusername "Administrator"  
-sourcepassword "Password1"  
-destination mycms2:6400  
-destinationusername "Administrator"  
-destinationpassword "Password2"  
-logfile "/usr/logs/myLogFile.csv"
```

例: BIAR から CMS へのエクスポート

```
<AIXJVMDIR>/java -Xmx2g -Djava.library.path="<BINDIR>"  
-jar upgrademanagementtool.jar  
-mode biartolive  
-biarfile "/usr/biarfiles/myBiarFile.biar"  
-destination mycms2:6400  
-destinationusername "Administrator"  
-destinationpassword "Password1"  
-logfile "/usr/logs/myLogFile.csv"
```

① 注記

ソースデプロイメントおよび出力先デプロイメントが異なる物理ネットワーク上にある場合、または双方の Central Management Server に同時に接続できない場合に、BIAR から CMS へのエクスポートを使用します。

関連情報

[変数 \[11 ページ\]](#)

[コマンドラインパラメータ \[33 ページ\]](#)

5.1.5.3.1 応答ファイルの作成

応答ファイルは、アップグレードを実行するのに必要な各種パラメータを含むプレーンテキストファイルです。応答ファイルを使用すると、コマンドラインから複数のカスタムパラメータを指定したアップグレードマネジメントツールの実行が容易になります。詳細については、「コマンドラインパラメータ」の節を参照してください。

⚠ 制限

空の値または引用符 (") は応答に含まれません。

例: myResponseFile.txt

```
mode=livetolive
```



```
source=mycms1:6400
sourceusername=Administrator
sourcepassword=Password1
destination=mycms2:6400
destinationusername=Administrator
destinationpassword=Password2
logfile=/usr/logs/myLogFile.csv
configparam:base_url=http://myHost:8080/dswsbobje
locale=fr_FR
```

応答ファイルを使用するには、以下のパラメータを指定して、upgrademanagementtool.jar を実行します。

```
-responsefile "/usr/myResponseFile.txt"
```

関連情報

[変数 \[11 ページ\]](#)

[コマンドラインパラメータ \[33 ページ\]](#)

5.1.5.3.2 コマンドラインパラメータ

必須パラメータ

パラメータ	説明	例
-biarfile	エクスポート元またはエクスポート先として使用する BIAR ファイルの名前とパス。 <div> ① 注記 BIAR ファイルをアップグレード元またはアップグレード先として指定している場合にのみ、このパラメータを設定できます。 </div>	-biarfile "/usr/biarfiles/myBiarFile.biar"
-destination	コンテンツのエクスポート先とする CMS のホスト名。 <div> ① 注記 CMS がデフォルトではないポートで実行されている場合は、ポート番号も指定する必要があります。 </div>	-destination mycms2:7500
-destinationpassword	出力先デプロイメントの管理アカウントのパスワード。	-destinationpassword "Password1"
-destinationusername	出力先デプロイメントの管理アカウントのユーザ名。	-destinationusername "Administrator"

パラメータ	説明	例
-mode	<p>→ 注意</p> <p>-mode パラメータは必須です。</p> <p>エクスポートするコンテンツのモード。設定可能な値は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> • livetolive ある Central Management Server (CMS) から別の CMS にコンテンツをエクスポートします。 • biartolive BIAR ファイルから CMS にコンテンツをエクスポートします。 • livetobiar CMS から Business Intelligence Archive Resource (BIAR) ファイルにコンテンツをエクスポートします。 <p>詳細については、「“Business Intelligence Archive Resource (BIAR) ファイル”」の節を参照してください。</p>	-mode livetolive
-source	<p>コンテンツのエクスポート元とする CMS のホスト名。</p> <p>① 注記</p> <p>CMS がデフォルトではないポートで実行されている場合は、ポート番号も指定する必要があります。</p>	-source mycms1:6500
-sourcepassword	ソースデプロイメントの管理アカウントのパスワード。	-sourcepassword "Password1"
-sourceusername	ソースデプロイメントの管理アカウントのユーザ名。	-sourceusername "Administrator"
オプションパラメータ		
パラメータ	説明	例
-configparam	<p>各種オブジェクトのパラメータを入力できます。</p> <p>① 注記</p> <p>パラメータに続いて、コロン (:)、オブジェクトパラメータ名、等号 (=)、オブジェクトパラメータ値を入力します。</p>	-configparam:base_url="http://localhost:8080/dswsbobje"

パラメータ	説明	例
-locale	アップグレードマネジメントツールの言語ロケールを指定します。	<code>-locale fr_FR</code>
<div>① 注記</div> <p>サポートされていないロケールが指定された場合、アップグレードマネジメントツールは、デフォルトの英語またはシステムロケールに設定されます。</p>		
-logfile	更新処理の記録を含むログファイルを作成します。	<code>-logfile "/usr/logs/myLogFile.csv"</code>
-biarpassword	BIAR ファイルをパスワードで保護します。	<code>-biarpassword "p;4s5\$W0r,d"</code>
<div>① 注記</div> <p>このパラメータを使用する場合は、<code>-encrypttempstorage</code> も使用されます。</p>		
-encrypttempstorage	アップグレードプロセス中に作成されたローカルデータベースを暗号化します。	<code>-encrypttempstorage</code>
<div>① 注記</div> <p>BIAR ファイルを暗号化するとアップグレードプロセスが長くなり、パフォーマンスが落ちる可能性があります。</p>		
<div>⚠ 警告</div> <p>このパラメータは BIAR ファイルをパスワードで保護しません。<code>-biarpassword</code> を使用して、パスワード保護を追加します。</p>		
-responsefile	アップグレードを実行するのに必要な各種パラメータを含む応答ファイルを使用します。	<code>-responsefile "/usr/myResponseFile.txt"</code>

関連情報

[変数 \[11 ページ\]](#)

[コマンドラインからの完全アップグレードの実行 \[31 ページ\]](#)

[応答ファイルの作成 \[32 ページ\]](#)

[Business Intelligence Archive Resource \(BIAR\) ファイル \[8 ページ\]](#)

5.2 サーバの再設定および追加

既存のデプロイメントが複数のサーバまたはサーバクラスタに分散しており、そのデプロイメントを再作成する場合は、セントラル管理コンソール (CMC) を使用してサーバを手動で追加し設定する必要があります。

CMC を使用したサーバおよびサーバクラスタの追加の詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

5.3 監査データベースの設定

既存の監査データベースのコンテンツを維持する場合は、BI プラットフォーム 4.2 デプロイメント用に新しい監査データベースを作成します。アップグレードマネジメントツールでは、元の監査データベースのコンテンツはコピーされないため、元の監査データベースの各種設定をすべて再作成する必要があります。

監査データベースの設定の詳細については、BI プラットフォーム管理者ガイドの“監査の管理”に関する章を参照してください。

5.4 BI プラットフォーム 4.3 サーバを有効にする

既存の BI プラットフォームデプロイメントのコンテンツをコピーしたら、セントラル設定マネージャ (CCM) およびセントラル管理コンソール (CMC) を使用して BI プラットフォーム 4.3 サーバを有効にします。

1. CCM を開き、Server Intelligence Agent および Web アプリケーションサービスを開始します。
2. ブラウザを開き、管理者アカウントで CMC にログインします。
3. [サーバ] 領域で、すべてのサーバを選択して [サーバの有効化] をクリックします。

5.5 旧バージョンのデプロイメントのアンインストール

BI プラットフォームを旧バージョンのデプロイメントと並列インストールした場合は、必要なくなった旧バージョンのデプロイメントとそのサービスパックおよびホットフィックスを、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] を使ってアンインストールできます。

① 注記

既存のデプロイメントの File Repository Server のコンテンツ、CMS データベーステーブル、監査データベーステーブルはアンインストールされません。

6 アップグレード後

BI プラットフォーム 4.2 のアップグレード後に、以下の作業が必要な場合があります。

- BI プラットフォーム 4.2 では、Windows NT 認証をサポートしていません。既存の Windows NT ユーザとグループが存在する場合は、AD エイリアスジェネレータツールを使用して、Active Directory (AD) 認証に移行できます 詳細については、“Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスの移行”の節を参照してください。
- Desktop Intelligence Compatibility Pack (DCP).を同梱する Desktop Intelligence 3.1 デスクトップクライアントを使用し、アップグレードマネジメントツールを使用して XI R2 および XI 3.1 から移行された Desktop Intelligence ドキュメントを表示できます。DCP の前提条件および操作の詳細については、DCP ユーザガイドを参照してください。

関連情報

[サードパーティの認証方法 \[19 ページ\]](#)

6.1 Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスの移行

AD エイリアスジェネレータを使用すると、Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスを Active Directory (AD) のエイリアスに移行できます。AD エイリアスジェネレータを実行すると、ジェネレータは管理用の認証情報を使用して出力先デプロイメントの Central Management Server (CMS) にログオンし、CMS のユーザオブジェクトとグループオブジェクトを一括で処理します。.

関連情報

[サードパーティの認証方法 \[19 ページ\]](#)

6.1.1 Windows NT ユーザおよびグループのエイリアスを移行する

① 注記

エイリアスを移行する前に、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、Windows AD の管理用の認証情報とデフォルトドメインを設定します。

1. <WIN64DIR>/ADAliasGenerator.exe を使用して、AD エイリアスジェネレータを実行します。
2. コマンドプロンプトの出力をメモします。
 - エラーが発生しなかった場合は、AD エイリアスジェネレータを使用して出力先デプロイメントから NT エイリアスを削除します。
 - エラーが発生した場合は、ログファイルを確認し、CMC を使用してマップされた AD メンバーグループを出力先デプロイメントから削除し、設定を変更し、再度 AD エイリアスジェネレータを実行します。

関連情報

[マップされた AD メンバーグループを削除する \[39 ページ\]](#)

6.1.1.1 AD エイリアスジェネレータのコマンドラインパラメータ

パラメータ	説明	例
-cms	出力先デプロイメントの Central Management Server (CMS) のホスト名です。 <div> ① 注記 CMS がデフォルトではないポートで実行されている場合は、ポート番号も指定する必要があります。 </div>	<code>-cms mycms1:6500</code>
-username	出力先デプロイメントの管理アカウントのユーザ名です。	<code>-username Administrator</code>
-password	出力先デプロイメントの管理アカウントのパスワードです。	<code>-password Password1</code>
-remove	出力先デプロイメントからユーザおよびグループの NT エイリアスを削除します。 <div> ⚠ 警告 このパラメータを使用する前に、AD エイリアスジェネレータによってエイリアスが正しく移行されたことを確認してください。 </div>	<code>-remove</code>
-help	使用可能なコマンドラインパラメータを表示します。	<code>-help</code>

例: NT ユーザおよびグループのエイリアスの AD への移行

```
<WIN64DIR>/ADAliasGenerator.exe  
-cms mycms1:6500  
-username Administrator  
-password Password1
```

例: NT エイリアスの削除

⚠ 警告

このコマンドを実行する前に、AD エイリアスジェネレータによってエイリアスが正しく移行されたことを確認してください。

```
<WIN64DIR>/ADAliasGenerator.exe  
-cms mycms1:6500  
-username Administrator  
-password Password1  
-remove
```

関連情報

[変数 \[11 ページ\]](#)

6.1.2 マップされた AD メンバーグループを削除する

マップされた AD メンバーグループを削除することにより、AD エイリアスジェネレータの操作を元に戻すことができます。



1. セントラル管理コンソール (CMC) を起動します。
2. [認証] 領域に移動し、[Windows AD] をダブルクリックします。
[Windows Active Directory] ダイアログボックスが表示されます。
3. [マップされた AD メンバーグループ] 領域で、AD グループをクリックしてから [削除] をクリックします。
4. AD メンバーグループの削除が終了したら、[更新] をクリックします。
ダイアログボックスが閉じます。

変更内容が Central Management Server に適用されます。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。